

自ら考え 挑戦し続ける子どもを育てます

～チャレンジ桜井～



令和6年1月31日

No.489

横浜市立桜井小学校



「正しく恐れること」が大切！

副校長 清野 正康

令和6年(辰年)が始まって、早いもので1か月が過ぎました。「1月は往ぬる、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、学校においても1月から3月までの時期は、時間の流れが早く、毎日があっという間に過ぎ去っていく印象があります。今年度も残り2か月です。新しい学年になる準備をしっかりと行い、今の学年を丁寧に締めくくってほしいと思います。きっと、あっという間に卒業式・修了式がやってくることでしょう。

さて、先日の中休み、廊下で数人の児童に話しかけられました。

児A：「副校長先生は、地震怖い？」

私：「地震はさ、突然来るから怖いよね。」

児A：「能登半島で地震があったでしょ。こっちにも来るんでしょ？」

私：「いつ来てもおかしくないって言われているよね。」

児B：「来る来るって言われてるけど、来ないよね。」

児A：「でも、来たら怖いよお・・・。」

私：「そのための避難訓練だよ。家の人と地震が来たらどうするか、ちゃんと話してる？ 逃げるときに持っていくものとか、準備してる？」

児B：「ビミョ～・・・。」

突然の質問に気の利いた返答ができなかったことを反省しつつ、この子たちとの短い会話から二つの言葉が頭に浮かびました。『天災は忘れた頃にやってくる』と『正しく恐れよ』です。どちらも多くの防災格言で有名な寺田寅彦氏の言葉がもとになっています。現在は、学校だけでなく社会のいたるところで防災教育が盛んに行われています。決して忘れていくわけではなく、むしろ防災への意識は高まっているはずなのですが、ひとたび大地震が起きるとその被害は甚大です。年明け早々、大地震に見舞われた能登地方の惨状を目の当たりにし、私たちは常にあらゆる備えをしておく必要があることを再認識させられた1か月でした。被災された方々が安心して生活できる日が一日でも早く訪れることを祈りつつ、日々の安全指導の中で、子どもたちの防災意識をさらに高めていきたいと思えます。

また、今回の大地震について、ネット上にデマ情報が広がっているというニュースを見ました。悪意ある発信者が発信したウソの情報を、善意の発信者が信じて拡散してしまった結果とのこと。災害時には、正しい情報を速やかに送受信することが大切です。防災教育とネットリテラシー教育を関連させて指導する重要性を考えさせられました。

1月27日(土)には、桜井小学校地域防災拠点の防災訓練が行われました。桜井小の体育館に避難所を開設したときの運営について、委員の方々が必要な訓練内容を検討した上で実施されました。避難所を運営する方々も同じ被災者であるという視点で考えると、『共助』はとても大切に尊い行為だと強く感じた訓練でした。

地震大国 日本に住む私たちだからこそ、いつどこで遭遇するかもしれない大地震に対して闇雲に恐がるのではなく、正しく恐れて、しっかりと備えていきたいと思います。